

令和5年度

1. プログラムの履修・修得状況

「データ・AIリテラシー」はデータサイエンス学部は1年次前期科目として、他の学部は1年次後期科目として開講されました。出席率は全15回平均で前期約94%、後期約91%であり、非常に高いものでした。前期後期ともに出席回数と成績評価には正の相関があり、成績の分布は前期がS:22%、A:54%、B:21%、C:2%、D:0%となり、後期はS:26%、A:48%、B:18%、C:4%、D:4%となりました（四捨五入しているため、合計が100%にならないことがあります）。

「情報リテラシー」は全学部で1年次前期科目として開講されました。出席率は全15回平均で約92%となり、他の科目に比べてとても高い値でした。また、出席回数と成績評価には正の相関があり、成績分布はS:20%、A:70%、B:6%、C:2%、D:3%というものでした（四捨五入のため合計が100%になりません）。

2. 学修成果

「データ・AIリテラシー」では授業内容の予習用および事前事後学習用の動画を配信しています。これは第1、2、3、7、8、10、11、12回の各回で、その回の授業内容に応じた短い動画になっています。これらの視聴率は第3回まで95%以上だったのに対して第7～11回は92%前後で推移し、第12回は90%程度となりました。だんだん視聴率が下がっているとは言え、9割以上の学生が毎回視聴しています。また第4回と第9回には事前事後学習用のeラーニング教材を用意しています。これも動画と同様に漸減する傾向がありますが、全体で94%以上と多くの学生が取り組んでいることがわかりました。それらの成果として授業目標への学生の到達度を中間課題などの提出物で測ると平均97%となりました。

「情報リテラシー」では第1回から第8回にかけて事前学習教材を用意しています。平均して97%の学生が毎回これらの教材に取り組んでいたことがわかりました。また復習用のeラーニング教材には95%の学生が取り組んで成果物を提出しています。授業中の取組としてはPBL（Project Based Learning）を行い、各自の提出した成果物で授業目標への到達度を測っています。成果物の提出率は全体で95%となっており、非常に高いものでした。なお、空き時間にはタイピング練習は実施してもらっていて、80%以上の学生が長文を200回以上入力するタイピング練習を修了しました。

3. 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度

「データ・AIリテラシー」に対する授業アンケート（回答率91%）で授業内容の各分野について理解度を10段階で聞いたところ、どの分野でも5以上（理解できた～概ね理解できた～完全に理解した）の回答が全体の8割以上を占めていることがわかりました。またそれらを総合した「この授業の到達目標は達成しましたか」という質問には、非常にそう思う:10%、そう思う:63%、どちらでもない:24%、そう思わない:3%、まったくそう思わない:0%という回答が得られました。このアンケートから、全体の7割以上が到達目標を達成したと感じていることがわかります。

「情報リテラシー」に対する授業アンケート（回答率 90%）でも授業内容の各分野について理解度を 10 段階で聞いたところ、どの分野も 5 以上の回答が全体の 8 割以上を占めました。これらを総合した「この授業の到達目標は達成しましたか」という質問には、非常にそう思う：12%、そう思う：61%、どちらでもない：24%、そう思わない：3%、まったくそう思わない：0%という分布になりました。これを見ると、全体の 7 割以上が到達目標を達成したと感じていることがわかります。